

社長のひとりごと

先日、何かで「高齢化もCO2排出量が増えている一因」という記事を読みました。それによると、家計に占める光熱費の割合は、60歳以上の高齢者では30代の倍近くを占めるというデータがあるそうです。高齢者という環境負荷の少ない昔ながらの暮らしをしていると思われがちですが、ヒートショックの危険性も高く、温熱環境を整えるなどの目的で、電気などのエネルギーを多く消費する傾向があるというのです。データは、「家計に占める割合であり絶対量ではない」、「60代と30代の在宅時間の差を考慮していない」などあり、一概には言えないと思いますが、少なくともその傾向があると言えるようです。福祉と環境、両方の観点から考えても、高齢者の住宅の温熱環境を整えることは重要なことです。家中どこへ行っても温度差が2~3度のOMソーラーは、まさに温熱環境のバリアフリーを可能にしています。室内の気温を見ると、一番寒い部屋でも15度程度はあります。コタツなどの直接暖房に慣れた方は、じっとしていると少し寒いと感じるかもしれません。そのときは、「一枚多く着て下さい」とお話ししています。冬もTシャツ一枚でいるような温熱環境は過剰だと考えています。補助暖房を工夫して使って、ライフスタイルに合った温熱環境をつくっていただきたいと思います。

代表取締役 田中 昭弘

〈 見て、聞いて、触って、味わってみよう 〉

期間限定 家づくりフェア開催! ~ 五感に働きかけるイベント

2008年上半期のイベント予定が決まりました。

1月~6月までのイベント予定は以下の通りとなっております。参加ご希望の方は下記までお申込み下さい。

- 1月27日(日) 珪藻土かべぬり体験会
- 2月17日(日) 珪藻土かべぬり体験会
- 3月9日(日) 珪藻土かべぬり体験会
- 3月28日(金) ~ 4月25日(金) 家づくりフェア (メインは桜祭りの期間)
- 4月13日(日) 珪藻土かべぬり体験会
- 5月11日(日) 珪藻土かべぬり体験会
- 5月25日(日) 自分で造る、ピザ釜&バーベキューコンロ
- 6月1日(日) 自分で造る、ピザ釜&バーベキューコンロ
- 6月8日(日) 自分で造る、ピザ釜&バーベキューコンロ
- 6月22日(日) 珪藻土かべぬり体験会

家づくりフェアは申込み不要です。期間中、10:00~18:00まで営業します。(水曜日はお休みです)お誘い合わせの上、お気軽にお越し下さい。

上記予定は変更になることがあります。詳細が決まり次第、DMなどでお知らせします。

申込先 : 田中建設工業株式会社
住宅工房SORA 営業部 担当 田中
TEL 0240-34-6125 FAX 0240-34-6126

【タマホーム坪25万8000円の実像】

2008年1月号の日経ホームビルダーで、「タマホーム坪25万8000円の実像」という特別レポートを読みました。

みのもんたさんを起用したテレビCMなど、その押し出しの強さに圧倒される反面、タマホームの実像が見えてこないため、建て主への調査を実施し、そのデータをぶつけながら、玉木康裕社長へのインタビューを行なったものです。

ここで紹介されているタマホームの戦略、家づくりの考え方などは、弊社のような地域密着型の地場工務店には受け入れ難いものです。何より、今回調査した建て主の方で、25万8000円の坪単価で済んだ方はおらず、坪42万~80万という結果でした。施工面積ではなく、延べ面積での算出という条件を考慮しても、工務店とそれほど変わらない坪単価です。どうやら、スケールメリットはお客様には還元されず、利益になっているようです。そしてその利益の多くを宣伝費に注ぎ込んでいるといえます。

木造注文住宅でのハウスメーカーを目指して、今後もリフォーム市場を考えない徹底した新築主義でいくと言います。インタビューの内容でも、お客様に対する想いが感じられず、自社の想いや夢だけが声高に語られています。住宅業界のホリエモンのように見えてしまいます。

メンテナンスやサービスへの不満の声が多くある中でも、「坪25万8000円」というキャッチとテレビコマーシャルから、2007年は急成長しました。

タマホームが今後、市場からどのような評価をされるのか、注視していきたいと思えます。

空は、世界中どこまでもつながっています。
空は、どこにいても同じ表情を見せてくれます。
いつでも、どこにいても見ることで空のようになりたい。
住宅工房『空』には、そのような想いが込められています。

お日様が燦爛と降り注ぐ青空。
どんよりした曇り空。
どしゃ降りの雨、激しい雷、台風の空。
地域によって異なる気象条件を活用して、
その激しさに耐え、自然の恵みを余すところなく採り入れる。
そんな家づくりを目指しています。

SORA 住宅工房 空

いつも青空のようにさわやかで、お日様のようにニコニコと。
家づくりを通して、そのような輪が広がっていけば素敵なおことです。

- < 展示コーナー > 住宅写真パネル、プラン集、模型、シミュレーション、制震装置
- < 体験コーナー > かべぬり体験会、木工教室、プレゼンソフト
- < 視聴コーナー > OMビデオ、DVD
- < 飲食コーナー > 焼きそば、お好み焼き、バーベキュー、コーヒー
- < 相談コーナー > 新築、リフォーム、耐震診断

3月28日(金) ~ 4月25日(金)

(メインのイベントは桜祭りの期間)

開催場所: ギャラリーSORA & 夜ノ森ソーラータウン(夜ノ森南三丁目)
開催時間: 10:00 ~ 18:00 桜祭りの期間以外の水曜日はお休みです。

この通信は、これまでご縁のあった方々にお届けしています。

中止のお申し出がない限りこちらの一存でお送りしますが、一年以上音信のない方には、その後ご連絡があるまで休止させていただきます。

結露の原因と対策

先日、お客様から珪藻土のかべぬり体験会のお問合せをいただきました。それは、「遠方なので、出張して体験会をやってくれないか」ということでした。以前も気仙沼の方から申し込みがあり、「機会があれば仙台付近で企画しますのでその時にご出席下さい」とお断りしたことがありました。東北でかべぬり体験会を実施しているのは弊社だけの為、このように遠方からもお申し込みがあるようです。大変ありがたいことです。

なぜ体験会に参加したいのか詳しく伺ってみると、結露を防ぐ為、珪藻土を自分で塗りたいということのようです。確かに、サメジマのリターナブルパウダーには優れた調湿作用があります。しかし、それだけでは結露を防ぐことができません。結露は空気中の水蒸気が凝結して水滴になる現象です。気温が高いと飽和水蒸気量（空気中に含むことができる水蒸気の最大量）も大きくなり、低いと小さくなります。ガラス面やアルミのサッシ枠に付きやすいのは、外気に冷やされたサッシ枠やガラス面に、室内の温かい空気が触れるために起こります。

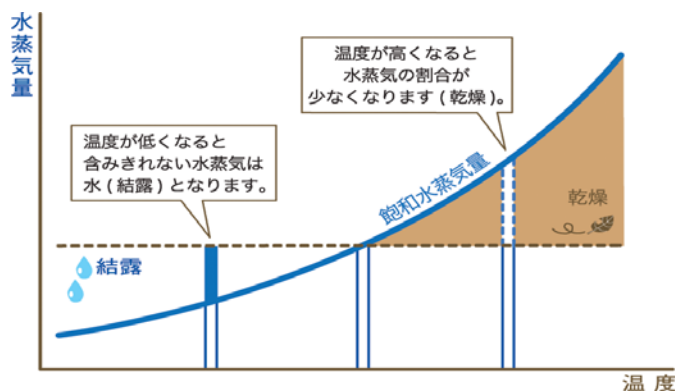


一般的に、断熱性能が高くなれば起こりにくいですが、生活の仕方によって

■飽和水蒸気量の例

気温	30℃	25℃	20℃	15℃	10℃	5℃
飽和水蒸気量 (g/m ³)	30.4	23.1	17.3	12.8	9.4	6.8

はそれでも結露してしまいます。例えば、エアコンで室温を高くして、常時、加湿器を使用していたり、換気扇を回さずに調理していたりすると結露しやすくなります。特に、カーテンと窓の間の空気は停滞してしまい、そのような暮らし方をしなくても結露しやすくなります。対策としては、ひとつの方法だけではなく、暮らし方、調湿材、断熱性能など、複合的に実施しなければなりません。調湿材使用や断熱性能アップは費用が発生しますので、最初は、暮らし方を変えてみることから始め、次に調湿材使用、断熱性能アップへと実施してみることをお勧めします。



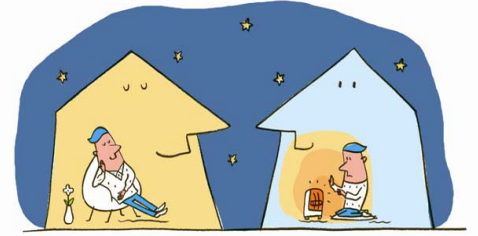
暮らし方のポイントは、室温を過剰に上げ過ぎないこと、過剰に加湿をしないこと、換気扇を使用することなどです。乾燥すると風邪をひきやすいというので、過剰に加湿する方もいますが、室温が高いと、いくら加湿しても相対湿度はほとんど変わらないか、むしろ下がります。寒くない程度の室温にして、加湿をできるだけ抑えましょう。

それでもひどい場合は、珪藻土などの調湿材を多くの壁に使ってみてください。予算があれば、合わせて、窓、壁などの断熱性能を上げるのもいいと思います。いずれにしても、そのような結露は拭き取ったりして対応できますが、むしろ問題なのは、壁内部などの見えない部分の結露の方です。内部結露を起こすと、土台や柱などの構造材に悪影響を及ぼしてしまいます。最近の家は、断熱性能が上がり、さらに、防湿シートや通気層の施工により、内部結露は起きにくくなっています。

OMソーラー活用のポイント(2)

補助暖房の使い方

お客様の中には、OMの補助暖房設備を設置していても、灯油がもったいないという理由でほとんど使わないという方がいるようです。「もったいない」という考え方は大変いいことだと思います。しかし、人間で言えば、基礎体温のような家の温度を保たなければ、冷え切った家を温めることになり、そのエネルギーの方が、基礎体温を維持するエネルギーよりも大きくなってしまいます。



2007年3月号でも取り上げましたが、人間の体感温度は、気温と表面(壁・床・天井)温度を足して2で割ったものになります。そのため、気温が高くても、家がある程度温まるまではそれほど温かく感じません。比較的低い気温でも寒く感じないOMソーラーの家は、全体をパッシブに温めるため、家の基礎体温が高く保たれている状態です。ですから、十分な集熱ができない天候の時には、家が冷え切らないように、最低限の基礎体温を維持するように、補助暖房を活用することをお勧めします。



IH誤使用で発火

「火を使わないので安全」がセールスポイントのIH調理器で、発火する事故が増えている。

独立行政法人製品評価技術基盤機構(nite)に通報があった事故は、2002年度から2006年度までの合計が14件だったのに対して、2007年度は8月までに10件あった。

発火状況を調べると、少量の油で調理していたり、底がへこんだ鍋を使っていたりする事故が複数あった。そこでniteが事故の再現実験をしたところ、加熱開始から約2分後に自然発火した。

実験は、底にへこみのある鍋を使い、メーカーの指定量よりも少ない100gの天ぷら油を入れて強で加熱。その場を離れてしまったという想定で実施した。1分後には、鍋から煙が上がり、自然発火して勢いよく燃え出した。

IH調理器には、温度センサーが取り付けられているが、油が少量の場合は温度上昇が早過ぎて、センサーが追いついていけない。そのうえ、センサーには鍋底が調理器に接していないと正確な温度を検知できないという弱点がある。実験では、約2分後に油の温度は400度に達したのに対し、センサーの検知温度は100度以下だった。

最近では、センサーの箇所数を増やしたり、鍋底が接してなくても温度を検知できる赤外線センサーを採用したものが出ている。いずれにしても、現在使っている機種取扱説明書をよく読んで、注意事項を把握し、正しい使い方をしなければならない。

(2007-12 日経ホムビルダ-記事より抜粋)

編集あとがき

今年から紙面をA4両面に変更させて頂きました。従来は、これから住宅建築を考えている方向けの内容になっていましたが、今後は、既にお住まいの方への情報を追加して、より多くの方に読んでいただけるよう内容を充実して参りたいと思います。季節感、時事感のある記事を織り交ぜて、編集人やスタッフの気になる情報を発信していきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願ひ致します。